

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

クレア派遣での経験を最大限に活かして
～SOYEUX DESTINS 絹が結ぶ縁～



群馬県富岡市世界遺産部富岡製糸場戦略課 課長 稲塚 広美

クレアパリでの業務

2010年4月、私はクレアパリに派遣されることになりました。富岡製糸場の世界遺産登録をめざしていた富岡市は、ユネスコ本部に程近く、ユネスコ日本政府代表部ともつながりのあるクレアパリを最適な派遣先として考えていたからです。

翌年、東日本大震災が発生しました。パリ郊外で開催された同年のジャパン・エキスポでは、震災をテーマとした展示・募金活動を行いました。フランスの各地で復興支援の動きが盛んになっていたことは、日本人のひとりとして大変うれしく思いました。

海外活動支援業務を通して、さまざまな地域と関わることができました。例を挙げると、和歌山ニット組合ロジ、ブザンソンと北海道松前町の高校生交流、山梨県副知事・甲州市長のトップセールスによる甲州ワインのプロモーション、高岡銅器組合のメゾン・エ・オブジェ出展時の高岡市長アテンドなど、どれも思い出に残る活動支援でした。

その中でも一番思い出深いのは、2011年5月、富岡製糸場の設立指導者 仏人ポール・ブリュナの生誕地であるブル・ド・ペアージュ市を訪問し市長と面会したことです。また、この時に自身が担当した講演内容をクレアパリの広報紙に掲載したことが契機となり、後に富岡製糸場創業当初の



セルドン銅工場にてゴア氏と

線糸器が、仏アン県のセルドン銅工場から輸入されたという、重要な歴史の解明へと繋がることになりました。

2011年6月、パリで開催された世界遺産委員会では、岩手県知事、平泉町長、小笠原村長の歓喜溢れる姿を目の当たりにし、「次は富岡！」という想いが一段と強くなったのを憶えています。3年後、私は富岡製糸場課の課員として、歓喜に包まれることになったのです。

仏人国際交流員 (CIR) を採用

東京本部に在籍時は、業務課でJETプログラムを担当しました。

業務を通じて、素晴らしい人材でもニーズがなく採用されないというフランス人CIRの現実を知り、「これは勿体ない！」と、派遣元に戻ってからすぐにCIR獲得に動きました。2013年、ポール・ブリュナの再来というべき素晴らしい仏人CIRを迎えることができました。彼は、翻訳、通訳等さまざまな業務をこなしています。2014年6月、カタール・ドーハで開催された世界遺産委員会で「富岡製糸場と絹産業遺産群」が審議される際には、富岡市内で実施したパブリック・ビューイングで同時通訳を行い、富岡市民に存在をアピールすることができました。現在は、東京新聞に連載記事「ダミアン・ロブションのBONJOURぐんま」を執筆したり、テレビにも出演したりと活躍の場を広げています。

一気に加速した富岡市の日仏交流

2015年11月、外務省在リヨン領事事務所と共催で富岡製糸場世界遺産登録記念大型文化事業「絹が結ぶ縁」を開催し、この事業に合わせてブル・ド・ペアージュ市との友好都市協定を締結しました。翌年2016年10月、富岡製糸場にて「ブル・ド・ペアージュ展」を開催し、ブル・ド・ペアージュ市長と市議会議員をお迎



ブル・ド・ページュ市との友好都市協定締結式

えることができました。

また、富岡市は、日仏自治体交流会議にも、第2回会議（金沢市）から継続的に参加し、富岡市長が、第3回会議（高松市）では分科会座長、第4回会議（仏トゥール市）では基調講演を行うなど重要な役割を担ってきました。

昨年は、フランス関係者を招聘して、日仏交流シンポジウム「富岡製糸場のルーツを探る」を富岡市役所で開催したほか、「富岡製糸場のルーツを巡る旅」として、市民訪問団20名が富岡製糸場にゆかりのあるフランス都市を訪問しました。

そして、セルドンワイン生産者を招いた試飲会を富岡倉庫にて実施するなど、文化交流だけにとどまらず、経済交流にも事業を発展させることができました。



「絹が結ぶ縁」という名のセルドンワインができました

おわりに

この6年間を改めて振り返ると、クレアに派遣された経験は、自分の核を形成する糧となったことを実感しま

す。フランス語や仕事を学ぶだけでなく、私自身の思考や人生観まで変える機会となりました。また、当初は家族から反対されていた海外赴任ですが、かえって家族の絆が強まり、家庭の在り方を見直すこともできました。

そして何よりも、切磋琢磨しながら共に仕事をした国や他自治体の仲間が、日本各地に散らばっているということもクレア派遣の強みといえます。

今年は明治150年、そして日仏交流160周年、フランスではジャポニスム2018と題してさまざまな事業が計画されています。この節目に合わせ、富岡市では、映画「紅い襷〜富岡製糸場物語〜」を制作しました。この映画は、明治5年、富岡製糸場創業時にフランスからの技術交流だけでなく、日仏の心が繋がったことをテーマとして描いています。現在、日本全国に展開していますが、これをフランスにて上映する準備を進めています。当市は、人口5万人に満たない小さな自治体ですが、クレアと連携しながら、今後も国際業務により一層、力を入れていきたいと思えます。



映画「紅い襷〜富岡製糸場物語〜」チラシ

プロフィール

- 所属：富岡市世界遺産部富岡製糸場戦略課
- 業務内容：富岡製糸場の企画広報全般、富岡シルクのブランディング
- クレア時代の所属：
 - 2009年4月～2010年3月 東京本部業務課 主査
 - 2010年4月～2012年3月 パリ事務所所長補佐